

中学校

平成 16 年 度

教育研究員研究報告書

総合的な学習の時間

東京都教職員研修センター

目 次

主題設定の理由	2
研究の概要	
1 仮説の設定	3
2 研究の内容・方法	3
3 研究構想図	4
総合的な学習の時間の発表の段階の指導と評価に関する実態調査	5
総合的な学習の時間の発表の段階の指導の工夫（第1分科会）	
1 研究を進めるにあたって	8
2 発表の段階の効果的な指導	8
3 発表方法の長所と留意点等	11
総合的な学習の時間の発表の段階の評価の工夫（第2分科会）	
1 研究を進めるにあたって	12
2 発表の段階の適切な評価	12
3 指導と評価の一体化の工夫	13
4 総合的な学習の時間の評価規準の例（学習の段階別）	14
5 発表方法ごとの発表の段階における評価の留意点	15
6 評価結果の活用	16
実践事例	
1 A中学校における「ポスター・セッションによる1年生への発表」	17
2 B中学校における「プレゼンテーション・ブックを活用した発表」	20
3 C中学校における「多様な形式による文化祭での発表」	22
成果と課題	24

研究主題

主体的に学習する態度を育てるための発表の段階の指導と評価の工夫 ～総合的な学習の時間と教科等との関連を図って～

主題設定の理由

国際化、情報化が急速に進展する社会に生きる生徒には、自らの考えや取組について積極的に発信することが一層求められている。例えば、上級学校の入学選抜でも、面接や自己推薦書を通して、中学校三年間の自己の取組を的確に説明し、アピールする力が試されている。各学校においては、生徒が活動したことについて説明し、自分の考えを発表する力を育てるために、教科等で様々な指導が工夫されている。しかし、この力は、一つの教科だけで身に付くものではなく、教科等の横断的な学習を通してはぐくまれるものであり、その意味から、総合的な学習の時間の果たす役割は大きい。

平成15年度に実施された東京都教職員研修センターの「総合的な学習の時間の成果に関する調査研究」において、児童・生徒は、「自分の考えを自信をもって言えるようになってきた」や「自分の考えをわかりやすく伝える工夫をするようになってきた」の項目について、「そう思う」と回答した割合が低く、自分の考えをわかりやすく表現する力が十分に身に付いていないと感じていることが報告されている。

そこで、本研究では、生徒が楽しいと感じ、充実感をもてるような発表の活動を工夫することにより、自分の考えをわかりやすく表現する力が身に付き、主体的に学習する態度が育つと考え、研究主題を「主体的に学習する態度を育てるための発表の段階の指導と評価の工夫」とし、総合的な学習の時間の発表の段階の指導と評価について、現状を分析し、課題を整理し、改善のための工夫を提案することとした。

また、平成15年12月の学習指導要領の一部改正で、「各教科、道徳および特別活動で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにすること」が、総合的な学習の時間のねらいに加えられた。とりわけ、発表する力は、各教科等での指導の工夫が総合的な学習の時間に生かされることによって一層効果的に指導ができると考え、副主題を「総合的な学習の時間と教科等との関連を図って」とした。

なお、研究を進めるに当たっては、平成16年度教育研究員の共通研究テーマである「個に応じた指導の一層の充実」を踏まえ、生徒一人一人の興味・関心や既習の経験、知識・技能、活動の内容に応じて、丁寧に指導し、また評価することを総合的な学習の時間の指導の改善の大きな柱とした。

研究の概要

1 仮説の設定

本研究を進めるに当たり、次のような仮説を設定した。

教科等で身に付けた力を総合的な学習の時間における発表の活動に活用すれば、自分の考えを分かりやすく表現しようとする意欲が高まり、生徒一人一人に主体的に学習に取り組む態度を育てることができるであろう。

2 研究の内容・方法

(1) 分科会の設置

本研究では、生徒一人一人がより主体的に学習に取り組めるようになるには、発表の内容と方法の充実を図ること、発表の段階を中心とした評価方法を工夫すること、の二つが重要であると考え、次の二つの分科会を設置して、研究・実践を進めた。

第1分科会（発表の段階の指導の工夫）

本分科会では、発表の段階の指導の工夫に主眼を置き、各教科等の学習成果との関連を図り、課題に応じた発表の内容や方法・形態を選択することで、一人一人の生徒がより主体的に学習に取り組むことができると考え、次の研究を行った。

ア 総合的な学習の時間の発表の段階の指導と評価に関する実態調査を教師及び生徒を対象に実施することにより、その実態を把握し、課題を明らかにした。

イ 実態調査の結果及び各教育研究員の指導の実態から、発表の段階の指導のポイントについて考察し、次の三つにまとめた。

- 1 読み手や聞き手を意識した発表
- 2 情報を絞り込んだ発表
- 3 計画的に準備した発表

ウ 発表方法を類別し、それぞれの長所と留意点等をまとめ、一覧表を作成した。

第2分科会（発表の段階の評価の工夫）

本分科会では、発表の段階の評価の工夫に主眼をおき、適切な評価を実施することで、一人一人の生徒がより主体的に学習に取り組むことができると考え、次の研究を行った。

ア 発表の活動についての指導と評価の一体化の工夫についてまとめた。

イ 学習の段階別の評価規準の例を作成した。

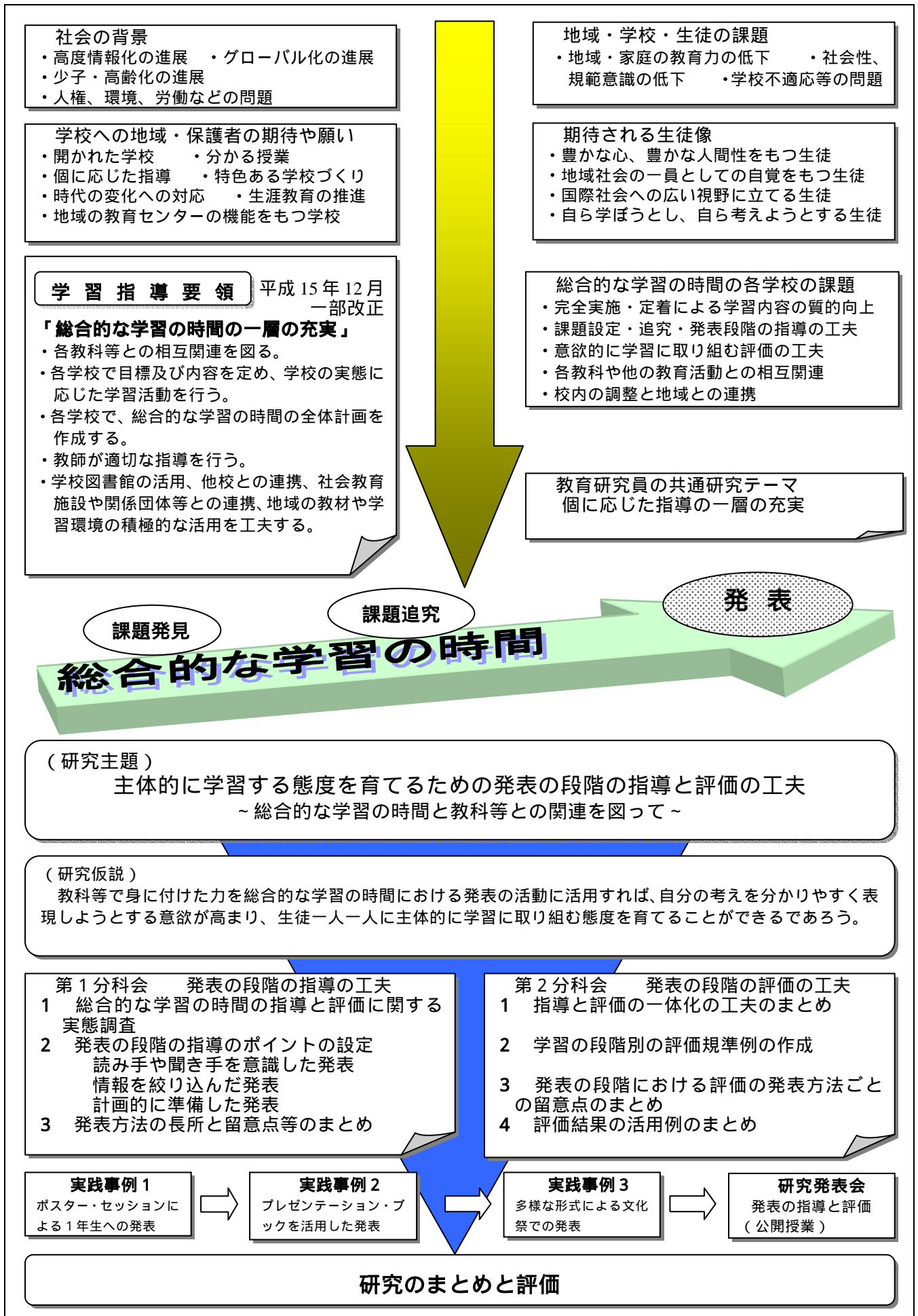
ウ 発表方法ごとの発表の段階における評価の留意点をまとめた。

エ 評価結果の活用例をまとめた。

(2) 授業による検証

本研究では、「発表の段階の指導の工夫」、「発表の段階の評価の工夫」について検証授業を実施し、その効果を明らかにした。

3 研究構想図

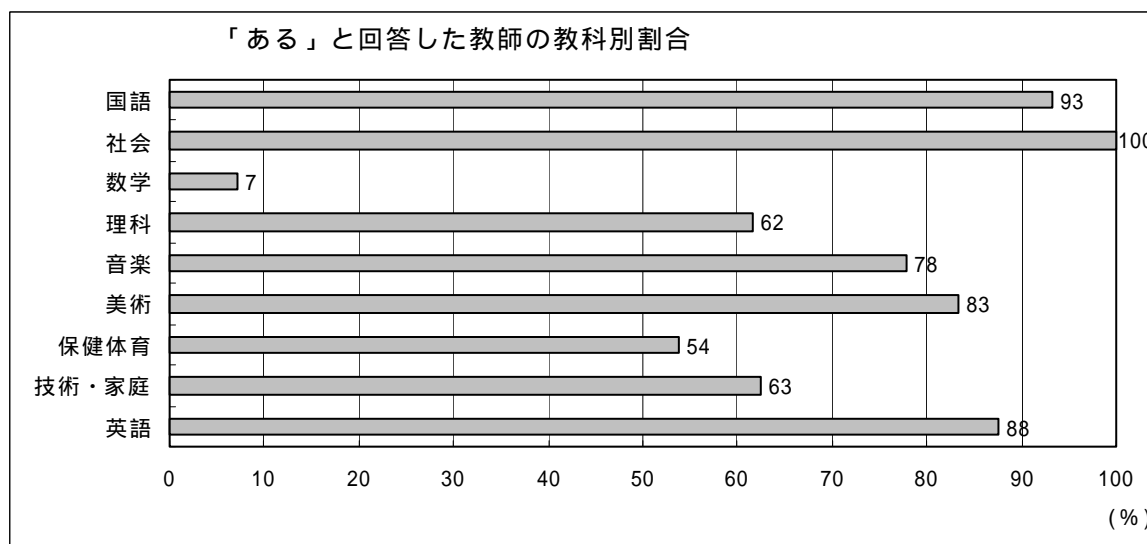


総合的な学習の時間の発表の段階の指導と評価に関する実態調査

研究を進めるに当たって、発表の段階の指導と評価に関する実態調査を教師・生徒を対象として、都内 11 校の中学校の協力により実施した。対象人数は、教師 106 人、生徒 731 人であり、平成 16 年 9 月に質問紙によるアンケート形式で実施した。なお、総合的な学習の時間は、この章の表中では以下、「総合」と表記する。

1 教師対象実態調査の回答

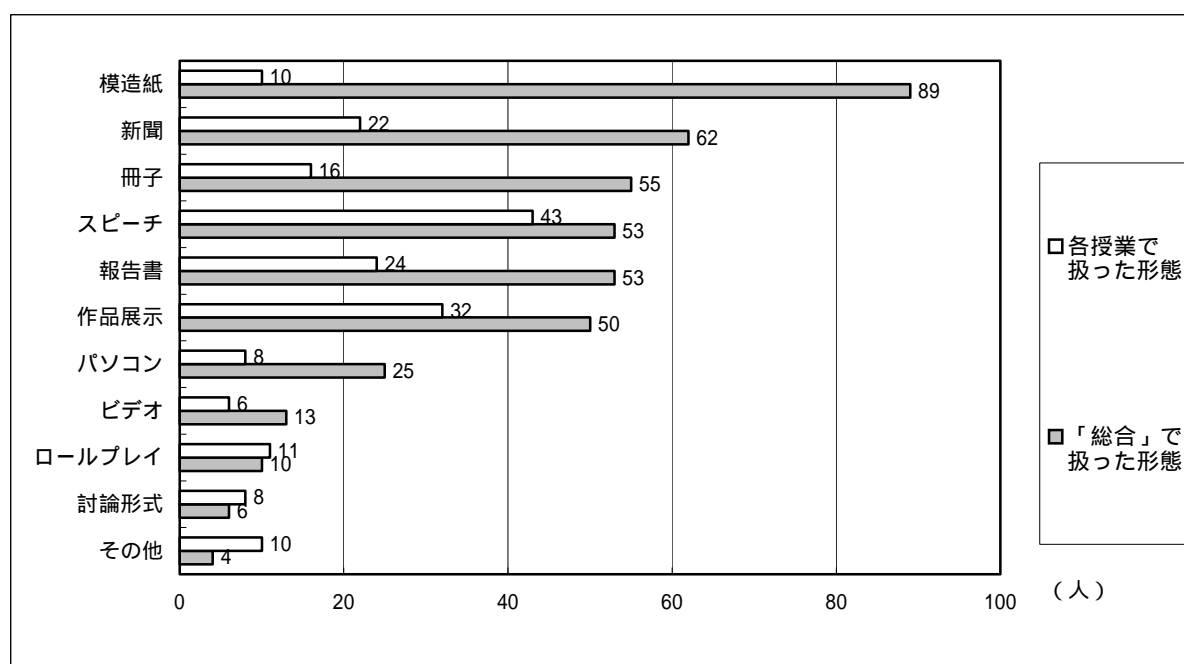
質問1 先生の担当教科の授業の中で発表に関する取組はありますか。



発表を多く授業に取り入れている教科は、社会（100%）、国語（93%）、英語（88%）である。一方、発表をあまりと入れていない教科は、数学である。調査対象の 11 校について、教科ごとの回答がほぼ同じ割合であったことから、教科の授業での発表に関する取組の実施頻度は、教科の特性等に起因すると考えられる。

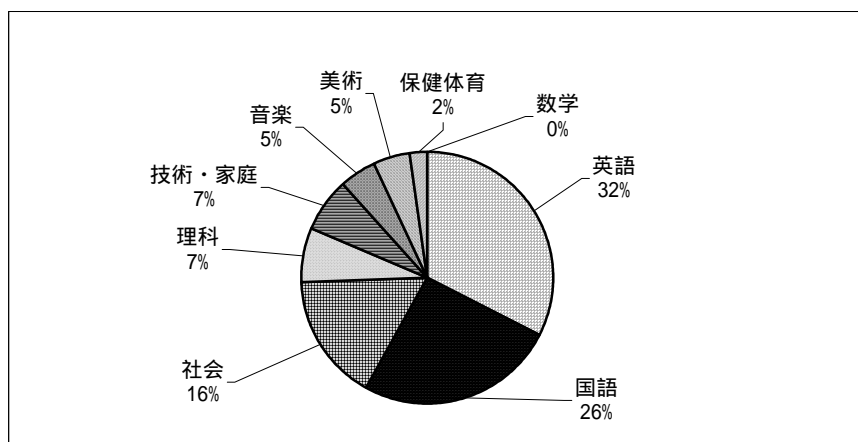
質問2 先生の担当教科の授業で扱った発表の形態は何ですか。（複数回答可）

質問3 「総合」で扱った発表の形態は何ですか。（複数回答可）



各教科の授業で扱った発表の形態で最も多いのは、スピーチによる発表であり、総合的な学習の時間でも比較的多く扱われている。また、模造紙による発表は、総合的な学習の時間で最も多く扱われているが、各教科ではあまり扱われていない。

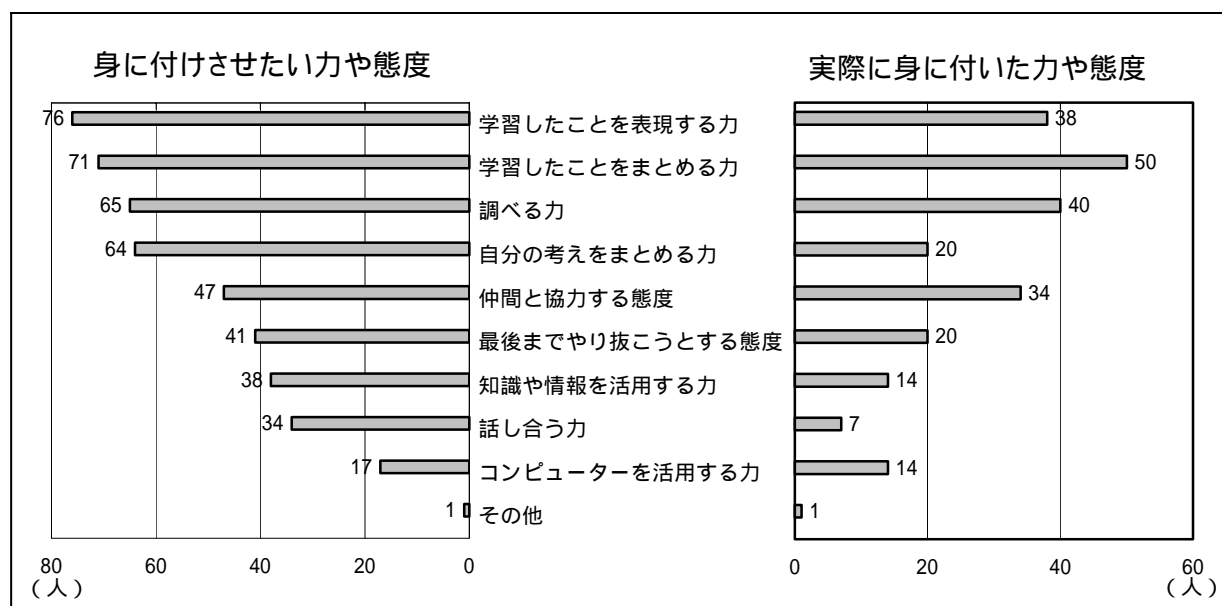
質問2のうち、スピーチを取り入れている教科



スピーチによる発表は、英語と国語が多く、2教科で全体の半分以上を占めている。

質問4 「総合」の発表により身に付けさせたい力や態度は何ですか。(複数回答可)

質問5 「総合」の発表により実際に身に付いた力や態度は何ですか。(複数回答可)

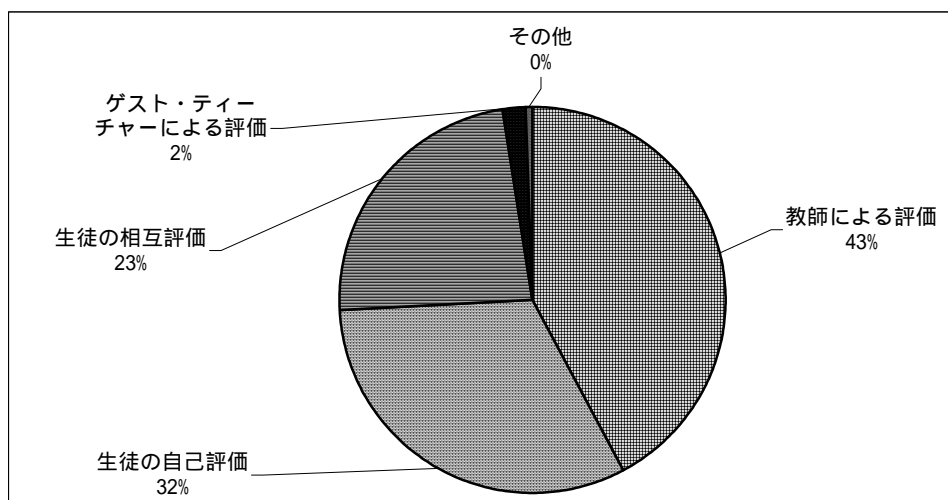


総合的な学習の時間の発表により身に付けさせたい力や態度と、実際に身に付いた力や態度とを比較すると、生徒に身に付けさせたい力として、「学習したことを表現する力」が106人中、76人と最も多い。しかし、実際に身に付いたという回答は、38人であることから、教師の期待の割には、生徒には、「学習したことを表現する力」が身に付いていない。

発表により最も身に付いた力は、「学習したことをまとめる力」であることから、まとめる力は育ってきているが、表現する力は十分とは言えない。

「学習したことをまとめる力」と「自分の考えをまとめる力」は、ともに教師の期待は高いが、実際には、「学習したことをまとめる力」は比較的身に付いているものの、「自分の考えをまとめる力」は十分には身に付いていないことが分かった。

質問6 「総合」の発表の段階の評価は、どのような方法で行っていますか。(複数回答可)



教師による評価 43%が最も多く、生徒の自己評価 32%、生徒の相互評価 23%と続く。

2 生徒対象実態調査の回答

質問1 各教科の学習内容で、「総合」で活用できたことは何ですか。(記述式)

教科	内容
国語	意見文。起承転結を利用して作文。スピーチ。
社会	レポートの作成で書き方を学習。新聞づくり。
数学	調査結果のグラフ化。様々な種類のグラフ作成。
理科	報告書(レポート)や新聞作り。
音楽	合唱や合奏の発表。
美術	冊子づくりで色のきれいな組み合わせを活用。新聞作りの見出し文字やポスターのレタリング。
体育	ダンスや体操の発表。
技術・家庭	プレゼンテーション・ソフトを利用。インターネットで修学旅行の事前学習。
英語	スピーチ。プレゼンテーションの方法。

教科の具体的な学習内容を挙げた回答が少なかったことから、各教科の学習内容が総合的な学習の時間に十分生かされていないか、あるいは、生徒が各教科と総合的な学習の時間との関連を十分認識していないことが推察できる。

比較的多くの回答があったのは、技術・家庭で学習したコンピュータによるインターネット検索、美術で学習したレタリングの文字を使った新聞づくりなどである。

総合的な学習の時間の発表の段階の指導の工夫（第1分科会）

1 研究を進めるにあたって

総合的な学習の時間の指導にあたって、様々な活動が工夫されている。しかし、実態調査の結果等から考えると、学習をまとめ発表する活動には、次のような現状があり、必ずしも効果的な指導がなされているとは言えない。

- ・発表への目的意識が低い
- ・原稿を読んでいるだけの発表で、聞き手にうまく伝わっていない
- ・発表の形態が画一化しているため、身に付けさせたい力が明確になっていない

このような状況から、発表の段階の指導が適切になされなければ、追究活動の充実も図れず、生徒が主体的に学習する態度も育たないと考えた。追究活動での学習を整理し、目的に応じて表現する力を身に付けさせるためには、各教科等との相互関連を図りながら、発表内容や方法・形態の工夫と、それに伴う基本的な技能を向上させる指導が必要である。

そこで、本分科会では、発表の段階の効果的な指導の在り方を明らかにするために研究を進めることとした。まず、本稿で示した教師及び生徒対象の実態調査を実施し、指導の実態を把握することにより、改善の方向を明らかにした。また、実態調査の分析や各教育研究員の指導の実態から、発表の段階の指導のポイントをまとめた。さらに、発表の活動を形態で類別し、それぞれの長所と留意点等をまとめた。

2 発表の段階の効果的な指導

(1) 実態調査等から見た発表の段階の指導の課題

総合的な学習の時間の発表の段階について、本研究で実施した実態調査によると、生徒に身に付けさせたい力として、最も多くの教師（71.7%）が、「学習したことを表現する力」を挙げている。一方、発表を通して実際にこの力が生徒に身に付いたと考える教師は、35.8%にとどまっている。また、「学習したことをまとめる力」(67.0%)、「自分の考えをまとめる力」(60.4%)も、多くの教師が生徒に身に付けさせたいと考えているが、実際に身に付いたと考える教師は、「学習したことをまとめる力」(47.2%)、「自分の考えをまとめる力」(19.0%)である。

つまり、「学習したことをまとめる力」は比較的身に付いているが、「学習したことを表現する力」はあまり身に付いておらず、さらに、「自分の考えをまとめる力」はほとんど身に付いていないことが分かる。

このことから、総合的な学習の時間で学習したことをまとめ、それを基に自分の考えを整理し、自信をもって分かりやすく表現する力の育成が課題であると考えられる。

この課題に迫るため、まず、総合的な学習の時間で扱われている発表の形態について実態調査から見ると、「模造紙にまとめることによる発表」(84.0%)が圧倒的に多いことが分かる。各教育研究員の指導の実態からも、生徒に明確な発表の目的を示さず、とりあえず模造紙にまとめることによって学習を終了させている例が多い。発表の形態として次に多いものは、「掲示を目的とした新聞の作成」(58.5%)、「冊子などの作成による発表」(51.9%)、「スピーチなど口頭による発表」と「報告書の作成による発表」(ともに50.0%)、「生徒の作品展示による発表」(47.2%)であるが、「模造紙にまとめることによる発表」と比較すると少ない。このことから、発表の内容にふさわしい発表方法・形態を一層工夫することが必要であると考えられる。

次に、発表に必要な知識や技能を生徒はどのように身に付けているのかを、教科の指導から見ると、教科の授業で発表に関する取組を実施しているという回答は67.0%と多く、国語、社会、英語では、ほとんどの教師が発表に関する取組を実施していることが分かる。さらに、その内容を見ると、国語、英語では、スピーチ等の口頭による発表も多く実施されている。

(2) 発表に関する各教科の取組み

実態調査から、各教科の授業の工夫の中で、総合的な学習の時間の発表に活用できると考えられる指導をまとめると次表のようになる。なお、模造紙など紙面による発表、スピーチなど口頭による発表の二つの発表方法に分けて整理した。

各教科で扱われている発表に関する指導

教科	紙面による発表	口頭による発表
国語	・発表項目の整理 ・報告書や新聞の作成	・スピーチなどの主題のまとめ方 ・発表の態度・姿勢・発声
社会	・事象のまとめ方 ・報告書や新聞の作成	・プレゼンテーション・ソフトの活用 ・報告書を使った発表
数学	・調査結果のグラフ化	・グラフを使用した説明
理科	・実験・観察レポートの作成	・プレゼンテーション・ソフトの活用
音楽		・合唱・合奏の発表 ・発声や姿勢
美術	・レイアウト、デザイン、レタリング	
技術・家庭	・パソコンの操作 ・報告書や新聞の作成	・パソコンの操作 ・プレゼンテーション・ソフトの活用
英語		・スピーチ等の要点のまとめ方 ・プレゼンテーションの方法

実態調査から、各教科では発表に関する多様な取組が行われていることが分かる。しかし、「各教科の学習内容で、総合的な学習の時間で活用できたことは何ですか。」との質問に対して、教科の具体的な学習内容を挙げた回答が少なかった。このことから、総合的な学習の時間の発表の段階の指導では、各教科の取組を一層活用し、多様な発表の場を用意し、発表の方法・形態を工夫することが課題として挙げられる。

(3) 発表の段階の指導のポイント

各教科で実施している発表に関する様々な取組が総合的な学習の時間の発表に十分生かされていないのは、学習内容を分かりやすく伝えるためにはどんな方法が効果的か、どの教科の知識や技能が利用できるのかなどが、生徒に十分に理解されていないためであると考えた。発表の段階の指導を効果的に行うためには、教科等との相互関連を一層密にし、生徒に発表を意識付けるとともに、多様な発表方法・形態等を選択できるようにすることが必要であると考えた。そこで、実態調査の結果や各教育研究員の指導の実態を踏まえ、発表の段階の指導のポイントをまとめた。発表の段階の指導のポイントとして、読み手や聞き手を意識した発表、情報を絞り込んだ発表、計画的に準備した発表、の三つを設定し、授業を通して有効性の検証を行った。

読み手や聞き手を意識した発表

模造紙や新聞などの書面による発表、スピーチなどの口頭による発表に共通して、発表の目的を明確にし、読み手や聞き手を意識して発表することが、生徒の発表意欲を高める。発表の目的を明確に意識し、発表内容がどのように相手に伝わり、どのように相手にプラスになるかを十分に考えた発表を行うことが重要なポイントとなる。

実践事例 1 (pp.17-19 参照) は、2 年生が 1 年生に職場体験で学習したことを伝えることを目的としたもので、聞き手は発表内容についての知識は十分ではなかったが、少人数を相手としたため、聞き手の反応を確認しながら進めることができた。聞き手の質問を予測して発表の準備を行ったため、発表者が学習を深める動機付けともなった。今回の実践では、一般的に行われている模造紙による発表をポスター・セッションによる少人数のグループ別の発表としたため、発表者である 2 年生、聞き手である 1 年生がともに満足する充実した発表を行うことができた。また、聞き手に保護者や外部講師等を加えることにより、生徒の発表に対する意識を高め、発表内容・方法の一層の工夫を促すと考えられる。

情報を絞り込んだ発表

発表を充実したものとするためには、発表内容が分かりやすく、しかも、興味深いものにする必要がある。そのためには、発表の段階に至る過程を常に確認し、追究段階における体験や調べ学習の内容を整理し、蓄積したものの中から、目的に応じて情報を絞り込むことが重要なポイントとなる。

実践事例 2 (pp.20-21 参照) は、ワークシート形式のガイドブックを用意し、生徒は活動ごとに記録を蓄積する。この取組は、発表を前提としていることから、記録する段階から内容の精査が行われ、発表の段階では必要な情報を抽出し、効果的にまとめることが可能となる。また、記録による追体験によって、学習内容が確認され深められるとともに、発表に必要な情報を収集するという意識が高められた。

計画的に準備した発表

発表に至る過程や準備の時間、選択可能な発表形態や利用できる場所、機材などを明確にすることによって、生徒の発表への意識が高められ、主体的な取り組みが行われるものと考えた。生徒は、与えられた準備期間と発表時間の中で、どのような方法が、学習内容に適しているかを考えて、発表内容を精選し、発表方法・形態や使用機材を選択することができる。

実践事例 2 (pp.20-21 参照) は、ガイドブックの活用により、活動の記録を目的に応じて適切にまとめ、発表の場や形態を明確にすることで、生徒の発表に対する意識が高まった。

実践事例 3 (pp.22-23 参照) は、文化祭に発表の場を設け、学習内容に適した発表形態を選択する方法を採った。また、教科との関連を示すことで、発表に必要なアドバイスをどの教科の教師から得られるかが分かり、各教科での指導を生かすことができた。

以上のように、多様な発表の場を設け、発表方法を工夫し、発表指導のポイントを明確にすることは、発表だけではなく、追究段階における活動をも充実したものとし、発表を意識した記録の蓄積と発表の実施は、生徒の達成度を評価する材料ともなる。このことから、発表段階の取組を明確に位置付けて指導することが、総合的な学習の時間を充実したものとするだけでなく、教科との相互関連を深めることになると考える。

3 発表方法の長所と留意点等

実態調査の結果をもとに、発表方法を類別し、それぞれに身に付く力、長所、留意点をまとめた。なお、身に付く力は実態調査の質問項目を使用した。

発表方法	主に身に付く力			長所	留意点
	学習したことをまとめる力	調べ力	話し合う力		
壁新聞・横造紙	自分の考えをまとめる力	学習したことを表現する力	話し合う力	イメージがやすく生徒が取り組みやすい。	全体発表時に後方の座席には見えにくい。発表原稿を作らないと、文面をそのまま読む発表会となる。
報告書	知識や情報を活用する力	自分の考えをまとめる力	話し合う力	生徒が慣れてくると短時間で完成する。教師が準備する道具も少ない。まとめる内容を精選すると、シンブルで的確なまとめとなる。また、発表後も手元に形として残すことができる。	時間の短縮化をねらって、教師が形式を定めると、画一化し独創性に欠けることがある。
コンピュータのプレゼンテーション・ソフトの活用	知識や情報を活用する力	コンピュータを活用する力	話し合う力	原案がよく、デジタルカメラやビデオ撮影した資料が多い時に有効である。	映像に頼りすぎると内容が希薄になりやすい。文章を長く書きつづると見づらくなる。
ポスター・セッション	学習したことを表現する力	学習したことを表現する力	話し合う力	発表者と聞き手との距離が近いので、掲示物が見やすく、質問などもしやすい。また、グループ別の活動がしやすい	発表者と聞き手の役割を明確にする必要がある。
ロールプレイング・劇	学習したことを表現する力	学習したことを表現する力	話し合う力	体験の様子や会話のやり取りなどを伝えるのに有効である。	しっかりとした台本作りと、事前の十分な練習が必要である。聞き手が発表の趣旨を受け止めて聞けるよう指導する必要がある。
ディベート	学習したことを表現する力	学習したことを表現する力	話し合う力	様々な意見を交換し合うことで、異なった意見から今まで見えなかったことを学ぶことができる。	事前の練習を十分に行う必要がある。また、多くの生徒が興味をもちやすいテーマを設定する必要がある。
スピーチ	学習したことを表現する力	学習したことを表現する力	話し合う力	体験をもとにして、論点を整理して考えをまとめることができる。	図や映像がない分、情報を的確に伝えるための原稿作りに、十分時間をかけて指導する必要がある。
ペーパーパート・紙芝居	学習したことを表現する力	学習したことを表現する力	話し合う力	絵が得意な生徒は、ロールプレイング以上に体験内容を伝えやすい。独創性あふれる発表となる。	台本の作成と人形や絵の制作に時間がかかるので、内容のまとめを丁寧に進める必要がある。

総合的な学習の時間の発表の段階の評価の工夫（第2分科会）

1 研究を進めるにあたって

第2分科会では、発表の段階を中心に置いて、総合的な学習の時間全体における評価について考察し、評価の工夫による生徒の主体的な学習の促進と、評価結果の次の学習や日常生活への有効活用という点から研究を進めてきた。

はじめに、これまでの教育研究員や「東京の教育21」教育開発委員会の研究成果などを参考に、発表の段階も含め、学習の段階別に評価の観点、評価規準、評価方法をまとめ一覧表を作成した。評価の観点としては、各教科に共通する観点を踏まえ、次の15項目に分類した。

計画性があるか	課題設定力があるか	発展性があるか	持続性があるか
積極性があるか	課題解決力があるか	見方・考え方・感じ方の独創性があるか	
自己の生き方への発展があるか	多面性があるか	自己評価を行う力があるか	
整理して発表する力があるか	表現の技能があるか	情報収集・活用能力があるか	
協調性・コミュニケーション能力があるか		知識を応用し、総合する力があるか	

これらの評価項目は、課題設定の段階から学習の成果をどのように発表すべきかという見通しを立てさせる「計画性」に始まり、自己の生き方や生活面に活用する「知識を応用し、総合する力」まで、総合的な学習の時間全体を想定して設定した。また、評価項目に応じた評価規準や評価方法もまとめ、総合的な学習の時間の教師の適切な指導や生徒の主体的に学習する態度の育成に役立つ評価を目指した。

次に、発表の段階での指導と評価の一体化の工夫について、第1分科会の研究と関連させ8種類の発表方法を取り上げた。発表方法・形態の選択は、生徒の発表への関心や意欲を高めたり、発表に必要なコミュニケーション能力や情報処理能力などの能力を育成したりする上で効果的であると考えられる。ここでは、項目に従って評価する際の発表方法ごとの留意点をまとめた。

また、評価結果の活用例として、保護者向けの総合的な学習の時間の報告カードを挙げた。保護者が総合的な学習の時間について詳しく理解するには、通知表に記載する所見による評価だけでなく、このような報告カードが効果的である。

2 発表の段階の適切な評価

実態調査によると、総合的な学習の時間の発表の段階の評価は、教師による評価が43%で最も多く、生徒の自己評価や相互評価は教師による評価の約半数となっている。

総合的な学習の時間では、生徒一人一人の興味・関心や活動の内容等に応じた個に応じた指導が必要であるが、評価についても、個に応じた指導に対応した適切な評価でなければならない。

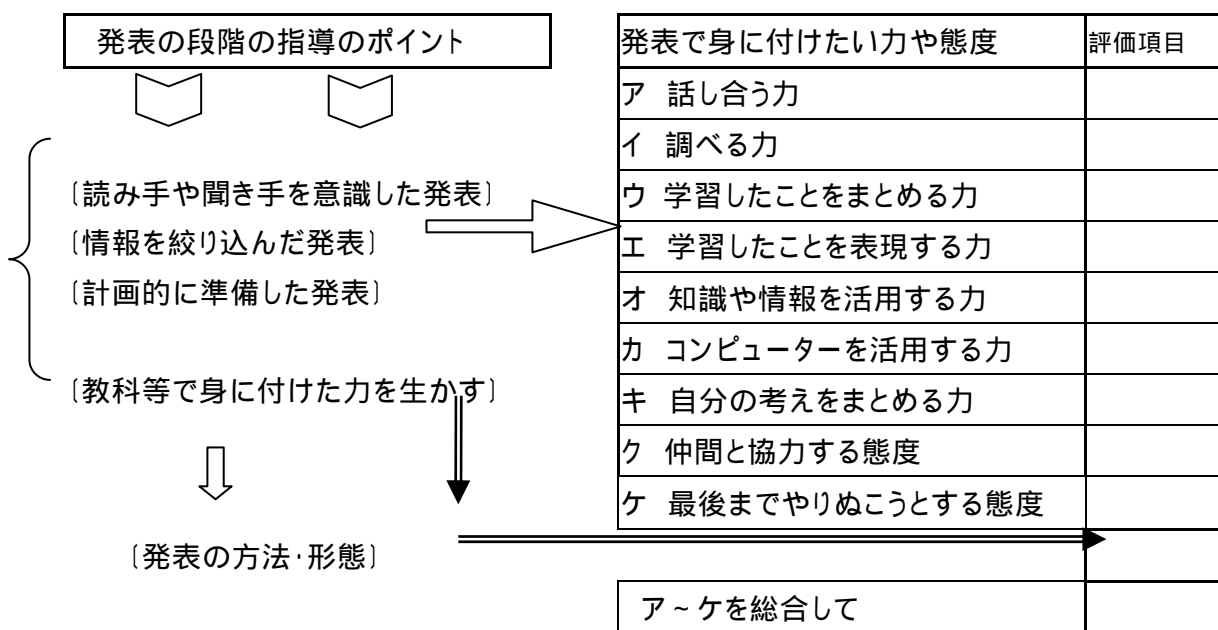
教師による評価に加えて、生徒自身も評価の観点や評価規準を理解し、毎時間や活動のまとまりごとに自己評価や相互評価ができるようなカードを用意したり、学習過程を振り返り評価できる方法を工夫したりすることが必要である。

学習過程を振り返り評価できる方法として、ポートフォリオ評価は、課題設定時のスケジ

ルール表や構想メモ、課題追究時の取材カード、観察カード、収集した資料、各種の評価カードや発表時の作品などが累積され、学習過程を振り返り、発表にも活用できることから、効果的な評価方法の一つと考えられる。ポートフォリオは、最後の段階でねらいが達成されたかどうかを評価する材料となるばかりでなく、学習過程の評価の材料としても使用できる。また、発表の活動でも、ポートフォリオから目的に応じて選んだ資料等を活用することで、生き生きとした発表を行うことができる。

3 指導と評価の一体化の工夫

第1分科会の設定した「読み手や聞き手を意識した発表」、「情報を絞り込んだ発表」、「計画的に準備した発表」をポイントとした指導を行うことで、先の実態調査の質問4、質問5で示した下図のア～ケの九つの「発表で身に付けたい力や態度」が育つであろうという考えの下に考察を進めた。この表で、ア「話し合う力」は「協調性・コミュニケーション能力」で、イ「調べる力」は「課題設定力」や「情報収集・活用能力」の評価項目で評価していくことで、それぞれの力が身に付いたかが判断できる。また、教科等で身に付けた力を生かしたかどうかは、発表の方法・形態から判断できるとともに、「知識を応用し、総合する力」としても評価できる。さらに、ア～ケを総合して身に付けられる力として、学習指導要領で総合的な学習の時間のねらいの一つに掲げられている「自己の生き方を考えること」が挙げられ、それが、 の評価項目に該当する。このように、指導の重点を明確にし、それに伴う評価を的確に行うことによって、生徒一人一人がより主体的に学習に取り組めるようになる考えた。



本分科会の研究・実践をまとめ、総合的な学習の時間の評価の観点を15項目に分類し、学習の段階別の評価規準の例を作成した。(14ページ)

また、各教科で身に付けた力を総合的な学習の時間の発表の活動に活用し、適切に評価できるよう、発表方法ごとの発表の段階における評価の留意点をまとめた。(15ページ)

4 総合的な学習の時間の評価規準の例(学習の段階別)

観点	評価項目	課題設定の段階	課題追究の段階	発表の段階
関心・意欲・態度	計画性があるか	全体を見通しての計画を自らたてられる (作文) (面接)	学習活動を計画的に進めていくことができる (観察) (自己評価カード)	発表当日までに計画的に準備ができる (観察) (自己評価カード)
	課題設定力があるか	自己の興味・関心などから意欲をもって課題の設定をすることができる (作文) (面接) (意見交換)	追究活動(調べ学習)において、ポイントを押さえた学習活動ができる (観察) (自己評価カード)	まとめ、発表で自らの課題を適切に伝えることができる (観察) (自己評価カード)
	発展性があるか	自らより高い活動に取り組もうとする意欲がある (作文) (面接) (意見交換)	自らより高い活動に取り組もうとする意欲がある (ポートフォリオ)	今後の学習活動、生き方に生かそうとするまとめ、発表ができる (観察) (自己評価カード)
	持続性があるか	学習活動に根気強く取り組もうとしている (観察)	学習活動を根気強く前達させていくことができる (観察) (ワークシート) (ポートフォリオ)	集中して確実な発表ができる (観察) (自己評価カード) (相互評価カード)
	積極性があるか	学習活動を着実に深めていこうとしている (観察) (作文) (面接) (意見交換)	学習活動を着実に積極的に深めていくことができる (ワークシート) (ポートフォリオ)	わかりやすいレポートや今後の生き方に生かそうとした発表ができる (観察) (自己評価カード) (相互評価カード)
思考・判断	課題解決力があるか	テーマを決め、自ら仮説をたてることができる (面接)	仮説に対して、検証することができる (面接) (自己評価カード)	検証したことを発表することができる (観察) (自己評価カード) (相互評価カード) (外部評価)
	見方・考え方・感じ方の独自性があるか	個の発想に学習への独自性、発展性がみられる (面接) (作文)	データの分析、追究活動を通し、多角的に考察することができる (ワークシート) (レポート) (ポートフォリオ) (自己評価カード)	追究活動で得たものを多角的に発表できる (観察) (自己評価カード) (相互評価カード) (外部評価)
	自己の生き方への発展があるか	今までの生き方、体験からよりよい課題設定をすることができる (面接) (作文)	さまざまな体験、ふれあいを通して多様な考え方、生き方を理解し、自らに取り入れることができる (意見交換) (自己評価) (ポートフォリオ)	自分のまとめや発表、他の生徒のまとめや発表をこれからの生活に生かすことができる (自己評価カード) (相互評価カード) (外部評価)
	多面性があるか	これまでの経験をもとに自らの課題をたてられる (作文) (面接)	学習活動の中で工夫や解決に必要な方法を求めて活動できる (ワークシート) (ポートフォリオ) (自己評価カード)	発表活動での工夫や解決に必要な方法を求めて活動できる (ポートフォリオ) (自己評価カード) (相互評価カード) (外部評価)
	自己評価を行う力があるか	課題へのよりよいかかわり方ができている (作文) (面接)	適宜振り返り、見直しや改善をおこないながら追究活動をおこなうことができる (自己評価カード) (ポートフォリオ)	場や相手に応じた発表であったかを考えることができる 自分の成長をとらえ、今後の生活に生かすことができる (自己評価カード) (相互評価カード) (外部評価)
技能・表現	整理して発表する力があるか	全体的な構想がたてられる (面接)	追究活動でわかったことの整理ができる (自己評価カード) (ポートフォリオ)	工夫して、周囲の人にわかりやすく効果的な発表やまとめができる (自己評価カード) (相互評価カード) (外部評価)
	表現の技能があるか	課題設定に対し、自分がどのように考えているか表現できる (面接)	自らの工夫で中間報告ができる (観察)	自分の考えを整理し、的確に表現ができる (自己評価カード) (相互評価カード) (外部評価)
	情報収集・活用能力があるか	課題設定にむけ、自分の得た情報を活用しようとしている (作文) (面接)	自ら資料収集し、それを生かして主体的に追究活動(調べ学習)をおこなっている (観察) (ワークシート) (ポートフォリオ) (自己評価カード)	コンピュータなどの情報手段を活用し、発表活動ができる (観察) (自己評価カード) (相互評価カード) (外部評価)
知識・理解	協調性・コミュニケーション能力があるか	他の生徒と課題設定について学びあい、考えを認め自分の意見を調整している (観察) (意見交換)	他の生徒の考えや行動を認め、協力し、マナーを身に付けながら学習を進めることができる (観察) (意見交換) (自己評価カード) (相互評価カード)	相手のことを考えながら発表活動ができ、他の生徒の発表のよさも認めることができる (観察) (自己評価カード) (相互評価カード) (外部評価)
	知識を応用し、総合する力があるか	各教科で学んだ知識・体験を生かし課題設定ができている (作文) (面接)	各教科で学んだこと、総合的な学習で学んだことを応用して追究活動に取り組むことができる (ワークシート) (ポートフォリオ) (自己評価カード)	総合的な学習で学んだことを各教科や他の教育活動と相互に関連つけた発表活動ができる (自己評価カード) (相互評価カード) (外部評価)

評価方法

教師による評価
 作文、面接、観察、ワークシート
生徒による自己評価
 自己評価カード、ポートフォリオ、ワークシート
生徒同士による相互評価
 相互評価カード、意見交換、ワークシート
外部による評価
 アンケート調査・聞き取り調査などによる外部評価

()内は評価方法

5 発表方法ごとの発表の段階における評価の留意点

観点	評価項目	発表方法		報告書	プレゼンテーション・ソフトウェアの活用	ポスター・セッション	ロールプレイング・劇	ディベート	スピーチ	ペーパーサポート
		壁新聞・模造紙	関連教科							
関心・意欲・態度	計画性があるか 課題設定力があるか 発展性があるか 持続性があるか 積極性があるか 課題解決力があるか	発表の段階の評価規準		国語・社会	技術・家庭	美術	(国語)	(国語・社会)	国語・英語	(美術)
		発表当日までに計画的に準備ができる	発表の準備ができて、発表ができて、今後の学習活動、生き方に生かそうとすると、集中して確実な発表ができる	全体の構成 バランス 仮説がしっかりしているか 他の生徒・班・他学年への模範・参考となるか 最後まで丁寧に行っているか	全体の構成 バランス 表題などの工夫があるか 他の生徒・班・他学年への模範・参考となるか 発表の態度・姿勢	全体の構成 バランス 表題などの工夫があるか 他の生徒・班・他学年への模範・参考となるか 発表の態度・姿勢	全体の構成 バランス 表題などの工夫があるか 他の生徒・班・他学年への模範・参考となるか 発表の態度・姿勢	全体の構成 バランス 演題の工夫 主旨の明確さ 他の生徒・班・他学年への模範・参考となるか 発表の態度・姿勢	全体の構成 バランス 自らの立場の根拠となる仮説を立てられる 他の生徒・班・他学年への模範・参考となるか 発表の態度・姿勢	全体の構成 バランス 演説の仮説が明確である 他の生徒・班・他学年への模範・参考となるか 発表の態度・姿勢
思考・判断	見方・考え方・感じ 自分の生き方への 発展があるか 多面性があるか 自己評価を行う力 があるか	発表方法		国語・社会	技術・家庭	美術	(国語)	(国語・社会)	国語・英語	(美術)
		発表の準備ができて、発表ができて、今後の学習活動、生き方に生かそうとすると、集中して確実な発表ができる	発表の準備ができて、発表ができて、今後の学習活動、生き方に生かそうとすると、集中して確実な発表ができる	全体の構成 バランス 仮説がしっかりしているか 他の生徒・班・他学年への模範・参考となるか 最後まで丁寧に行っているか	全体の構成 バランス 表題などの工夫があるか 他の生徒・班・他学年への模範・参考となるか 発表の態度・姿勢	全体の構成 バランス 表題などの工夫があるか 他の生徒・班・他学年への模範・参考となるか 発表の態度・姿勢	全体の構成 バランス 表題などの工夫があるか 他の生徒・班・他学年への模範・参考となるか 発表の態度・姿勢	全体の構成 バランス 演題の工夫 主旨の明確さ 他の生徒・班・他学年への模範・参考となるか 発表の態度・姿勢	全体の構成 バランス 自らの立場の根拠となる仮説を立てられる 他の生徒・班・他学年への模範・参考となるか 発表の態度・姿勢	全体の構成 バランス 演説の仮説が明確である 他の生徒・班・他学年への模範・参考となるか 発表の態度・姿勢
技能・表現	整理して発表する力があるか 表現の技能があるか 情報収集・活用能力があるか 協調性・コミュニケーション能力があるか 知識を応用し、総合理解する力があるか	発表方法		国語・社会	技術・家庭	美術	(国語)	(国語・社会)	国語・英語	(美術)
		発表の準備ができて、発表ができて、今後の学習活動、生き方に生かそうとすると、集中して確実な発表ができる	発表の準備ができて、発表ができて、今後の学習活動、生き方に生かそうとすると、集中して確実な発表ができる	全体の構成 バランス 仮説がしっかりしているか 他の生徒・班・他学年への模範・参考となるか 最後まで丁寧に行っているか	全体の構成 バランス 表題などの工夫があるか 他の生徒・班・他学年への模範・参考となるか 発表の態度・姿勢	全体の構成 バランス 表題などの工夫があるか 他の生徒・班・他学年への模範・参考となるか 発表の態度・姿勢	全体の構成 バランス 表題などの工夫があるか 他の生徒・班・他学年への模範・参考となるか 発表の態度・姿勢	全体の構成 バランス 演題の工夫 主旨の明確さ 他の生徒・班・他学年への模範・参考となるか 発表の態度・姿勢	全体の構成 バランス 自らの立場の根拠となる仮説を立てられる 他の生徒・班・他学年への模範・参考となるか 発表の態度・姿勢	全体の構成 バランス 演説の仮説が明確である 他の生徒・班・他学年への模範・参考となるか 発表の態度・姿勢
関心・意欲・態度	計画性があるか	発表当日までに計画的に準備ができる	発表の準備ができて、発表ができて、今後の学習活動、生き方に生かそうとすると、集中して確実な発表ができる	全体の構成 バランス	全体の構成 バランス	全体の構成 バランス	全体の構成 バランス	全体の構成 バランス	全体の構成 バランス	全体の構成 バランス
	課題設定力があるか	発表の準備ができて、発表ができて、今後の学習活動、生き方に生かそうとすると、集中して確実な発表ができる	発表の準備ができて、発表ができて、今後の学習活動、生き方に生かそうとすると、集中して確実な発表ができる	仮説がしっかりしているか 他の生徒・班・他学年への模範・参考となるか 最後まで丁寧に行っているか	表題などの工夫があるか 他の生徒・班・他学年への模範・参考となるか 発表の態度・姿勢	表題などの工夫があるか 他の生徒・班・他学年への模範・参考となるか 発表の態度・姿勢	演題の工夫 主旨の明確さ 他の生徒・班・他学年への模範・参考となるか 発表の態度・姿勢	自らの立場の根拠となる仮説を立てられる 他の生徒・班・他学年への模範・参考となるか 発表の態度・姿勢	演説の仮説が明確である 他の生徒・班・他学年への模範・参考となるか 発表の態度・姿勢	演題の工夫 主旨の明確さ 他の生徒・班・他学年への模範・参考となるか 発表の態度・姿勢
思考・判断	見方・考え方・感じ	発表の準備ができて、発表ができて、今後の学習活動、生き方に生かそうとすると、集中して確実な発表ができる	発表の準備ができて、発表ができて、今後の学習活動、生き方に生かそうとすると、集中して確実な発表ができる	最後まで丁寧に行っているか	画面の構成、わかりやすい	見やすさ・丁寧な文字・色使い	役作りの工夫 小道具などの製作	わかりやすい言葉 丁寧な言葉	わかりやすい言葉 丁寧な言葉	絵や人形の製作 の工夫・丁寧さ
	自分の生き方への発展があるか	発表の準備ができて、発表ができて、今後の学習活動、生き方に生かそうとすると、集中して確実な発表ができる	発表の準備ができて、発表ができて、今後の学習活動、生き方に生かそうとすると、集中して確実な発表ができる	仮説に対する推論があるか 意見・考察がしっかりしているか 問題提起・感動 生き方への影響力	仮説・検証が明確であるか 的確な画像、資料を取り入れているか 問題提起・感動 生き方への影響力	仮説・検証が紙上に示されているか 説明と意見が示されているか 問題提起・感動 生き方への影響力	演説・検証があるか 説・検証があるか 演説に独創性があるか 自分の立場の意見 を構築できる 問題提起・感動 生き方への影響力	仮説に対する検証が表されているか 意見・考察が的確である 問題提起・感動 生き方への影響力	仮説に対する検証が表されているか 意見・考察が的確である 問題提起・感動 生き方への影響力	仮説・検証の流れがあるか 独創性があるか 問題提起・感動 生き方への影響力
技能・表現	整理して発表する力があるか	発表の準備ができて、発表ができて、今後の学習活動、生き方に生かそうとすると、集中して確実な発表ができる	発表の準備ができて、発表ができて、今後の学習活動、生き方に生かそうとすると、集中して確実な発表ができる	読みやすさの工夫 文章力・構成員力	見やすさの工夫 画面の展開 画像の処理、画面の制作力	レイアウト・発表原稿の工夫 文章力・構成員力 説明する力	力の工夫 演技力・表現力	力の工夫 発表の力・説得力	力の工夫 発表の力・説得力	力の工夫 演技力・表現力
	表現の技能があるか	発表の準備ができて、発表ができて、今後の学習活動、生き方に生かそうとすると、集中して確実な発表ができる	発表の準備ができて、発表ができて、今後の学習活動、生き方に生かそうとすると、集中して確実な発表ができる	文章力・構成員力	見やすさの工夫 画面の展開 画像の処理、画面の制作力	レイアウト・発表原稿の工夫 文章力・構成員力 説明する力	力の工夫 演技力・表現力	力の工夫 発表の力・説得力	力の工夫 発表の力・説得力	力の工夫 演技力・表現力
知識理解	情報収集・活用能力があるか	発表の準備ができて、発表ができて、今後の学習活動、生き方に生かそうとすると、集中して確実な発表ができる	発表の準備ができて、発表ができて、今後の学習活動、生き方に生かそうとすると、集中して確実な発表ができる	資料・写真の活用 ワープロの使用	コンピュータの特色を生かしているか 班での役割分担 見る・聞く態度	絵・写真・資料の活用 班での役割分担 見る・聞く態度	資料などの収集へのコンピュータ活用 協力しあい役割を演じられるか	資料などの収集へのコンピュータ活用 相手側の意見を聞いているか	資料などの収集へのコンピュータ活用 相手側の意見を聞いているか	資料などの収集へのコンピュータ活用 相手側の意見を聞いているか
	協調性・コミュニケーション能力があるか	発表の準備ができて、発表ができて、今後の学習活動、生き方に生かそうとすると、集中して確実な発表ができる	発表の準備ができて、発表ができて、今後の学習活動、生き方に生かそうとすると、集中して確実な発表ができる	班での役割分担 読みやすさ レポートなどによりまとめる力が身に付いた	班での役割分担 見る・聞く態度 コンピュータを活用する力が身に付いた	班での役割分担 見る・聞く態度 ポスターを使って発表する力が身に付いた	班での役割分担 見る・聞く態度 劇などで意見を表現する力が身に付いた	班での役割分担 見る・聞く態度 話し方	班での役割分担 見る・聞く態度 話し方	班での役割分担 見る・聞く態度 話し方
知識理解	知識を応用し、総合理解する力があるか	発表の準備ができて、発表ができて、今後の学習活動、生き方に生かそうとすると、集中して確実な発表ができる	発表の準備ができて、発表ができて、今後の学習活動、生き方に生かそうとすると、集中して確実な発表ができる	レポートなどによりまとめる力が身に付いた	コンピュータを活用する力が身に付いた	ポスターを使って発表する力が身に付いた	劇などで意見を表現する力が身に付いた	発表の力・説得力が身に付いた	発表の力・説得力が身に付いた	発表の力・説得力が身に付いた
	発表の準備ができて、発表ができて、今後の学習活動、生き方に生かそうとすると、集中して確実な発表ができる	発表の準備ができて、発表ができて、今後の学習活動、生き方に生かそうとすると、集中して確実な発表ができる	発表の準備ができて、発表ができて、今後の学習活動、生き方に生かそうとすると、集中して確実な発表ができる	発表の準備ができて、発表ができて、今後の学習活動、生き方に生かそうとすると、集中して確実な発表ができる	発表の準備ができて、発表ができて、今後の学習活動、生き方に生かそうとすると、集中して確実な発表ができる	発表の準備ができて、発表ができて、今後の学習活動、生き方に生かそうとすると、集中して確実な発表ができる	発表の準備ができて、発表ができて、今後の学習活動、生き方に生かそうとすると、集中して確実な発表ができる	発表の準備ができて、発表ができて、今後の学習活動、生き方に生かそうとすると、集中して確実な発表ができる	発表の準備ができて、発表ができて、今後の学習活動、生き方に生かそうとすると、集中して確実な発表ができる	発表の準備ができて、発表ができて、今後の学習活動、生き方に生かそうとすると、集中して確実な発表ができる

* 関連教科は、実態調査の回答のうち顕著なもの。()内は少数であるが回答があったもの。

6 評価結果の活用

評価は、学習の到達度を測ることにより、新たな学習への意欲を喚起するものである。そのため、評価結果は有効に活用される必要がある。生徒に評価結果を伝え、今度の学習について、個々にガイダンスを行うなど個に応じた指導を行うことが大切である。また、保護者の理解を得るために、総合的な学習の時間の学習内容と生徒の学習状況の評価を適切に伝えることが必要である。しかし、これまでの総合的な学習の時間の評価の通知は、通知表の中に簡単な所見を記述することが多く、生徒がどのような活動を行い、どのような力を身に付けたかを知らせるには十分ではない。

そこで、下記のような「総合的な学習の時間の報告カード」を学期ごとに作成し、保護者へ通知する方法が効果的であると考え、実践した。内容は、総合的な学習の時間の「ねらい」と「育てたい生徒像」を学校が示し、「テーマ」、「自分の課題」、「学習内容」、「自己評価」、「学んだこと、今後の生活に生かしたいこと」を生徒が記入した。そして、教師による所見欄と保護者からの返信欄を加えた。

この報告カードを活用した結果、生徒が学習の過程を丁寧に振り返ることができるようになった。また、保護者からも活動の様子がよく分かるという声があり、総合的な学習の時間に対する理解と関心が深められたと考える。さらに、評価結果を基にして、学んだことを生活に生かせるよう、教師・生徒・保護者相互の連絡を密にし、生徒の学習状況、生活状況を見守ることが大切である。

「総合的な学習の時間の報告カード」の例（一部抜粋）

< 1 学期 >

テーマ 職場体験	
自分の課題 子ども達と触れ合う	
学習内容 保育園で子ども達と遊んだり、 世話をし、保育士の仕事について学習した。	
自己評価	
観点	自己評価
自分の課題を見付けられたか	(A) B C D
情報を集めることができたか	A (B) C D
情報をまとめることができたか	A (B) C D
よい発表ができたか	(A) B C D
仲間と協力することができたか	(A) B C D
自分課題の解決ができたか	(A) B C D
次の活動への意欲がもてたか	(A) B C D
学んだこと 今後の生活に生かしたいこと 保育士は子どもに大きな影響を与える仕事だ だのかわりました子どもと接して楽しめた ので、将来保育士になりたいと思いました。	
担当より	
保護者より	

「学んだこと、今後の生活に生かしたいこと」の記述例

- ・保育園では、幼児の体温計測、オムツ交換、抱いたり、遊んだり、忙しい一日でした。保育士は、やりがいのある仕事だと思いました。私も保育士になるために、今の勉強をがんばりたい。
- ・高齢者ホームでは、掃除、食事の世話、話し相手などをしましたが、高齢の方の立場に立って話を聞くことが一番難しかったです。しかし、おばあちゃんの「ありがとう」の一言で疲れがとれました。これからは、高齢の方と接する機会をもっと多くしていきたい。

保護者からの返信欄の記述例（内容を要約）

- ・教科ではできない充実した体験をすることができた。
- ・図書館や区の施設等に行き資料を集め、問題を解決する子どもの姿が頼もしい。
- ・仲間との協力の大切さ、最後までやり抜く力が身に付いたと思う。
- ・自分の考えをまとめ発表する体験は自信につながる。
- ・親子で進路を考えるきっかけとなった。

実践事例

実践事例 1

A 中学校における「ポスター・セッションによる 1 年生への発表」

1 総合的な学習の時間の目標

学校テーマ 「共に生きる」

第 2 学年テーマ 「地域と共に生きる」、「自己の生き方を考える」

- ・ 各事業所での体験を通して、将来の進路や職業に対する理解と関心を深め「共に生きる力」を養う。
- ・ 身近な地域の職場で働いている方から、あいさつや礼儀など正しく人と接する態度、職業観、生き方等たくさんのことを学びとる。
- ・ 体験した内容の発表会を実施することにより学習を深める。

2 学習活動

A 中学校では、第 2 学年 1 学期の総合的な学習の時間で職場体験を実施している。地域の飲食店、スーパーマーケット、工場、理容店、保育所など 18 の事業所の協力を得て、学年の生徒を 18 のグループに分け、1 日を使って勤労の体験をしている。体験後は、体験内容を模造紙にまとめ、学年内で発表会をもつことにより、体験を相互に交流させている。

今回は、2 年生の中から選ばれた 6 グループが職場体験での経験を模造紙に再度まとめて、次年度に同じ活動を予定している 1 年生に、ポスター・セッション形式で体験内容や感じたことを伝えた。この形式を選んだ理由は次の 3 点である。 模造紙へのまとめが良くできていて写真なども豊富にあったので、近くで見ることのできる少人数にして体験内容をよりわかりやすく伝達できること。 その場での質問などのやりとりを通して職場体験を身近に感じてもらうことができること。 1 年生が一人一人の興味・関心に応じて聞きたい発表を選択することができ、それぞれの発表を詳しく聞くことができること。この形式を取り入れたことで、1 時間内に 2 年生の 6 グループが 3 回の発表をすることができ、1 年生も 3 グループの発表を聞き、小グループでの活発なやりとりが見られるなど手応えのある発表ができた。

3 発表の段階の指導目標

異なる学年間を通じての体験学習のスムーズな継続・連携を目標に設定し、発表者側と聞く側との間にその目標を十分指導して学習に臨ませる。

2 年生は、1 年生への発表なので、分かりやすく説明できるような言葉遣いを選ばせるなど発表への工夫をさせる。

1 年生は、2 年生の体験を聞くことにより、自ら聞いた内容を次年度の職場体験に生かしていこうとする態度を養うとともに総合的な学習の時間の発表方法の学習とする。



4 発表の段階の指導過程

指導計画（5時間扱い）

- 1 時間目 模造紙による学習のまとめの作成、グループ討議による発表準備
- 2 時間目 2年生の学年内での発表会
- 3 時間目 模造紙による学習のまとめの精査、グループ討議による発表準備
- 4 時間目 ポスター・セッション形式での1年生へ発表会
- 5 時間目 自己評価及び相互評価による発表のまとめ

5 発表の段階の指導のポイント「読み手や聞き手を意識した発表」

発表や報告を異学年で行う際、普段あまり接しない他学年の生徒の前での発表は、同学年での発表とは違って生徒はかなり緊張する。そのため、発表者の集中力が続かなかつたり、発表内容が難しく1年生にはうまく伝わらないこともあるので、工夫した発表が必要になる。そこで、第1分科会の発表の段階の指導の工夫の「読み手や聞き手を意識した発表」を指導のポイントにして、少人数でコミュニケーションも図りやすいポスター・セッション形式の発表方法を取り入れた。難しい言葉を使わないように言葉をよく選んで説明することやポスターも1年生が興味をもちやすいように写真を多く取り入れて作り直すなどの指導を行った。また、聞き手の学年にも事前に質問を多く考えさせておいて、相互にコミュニケーションが図れるように工夫した。

6 各教科等の学習との関連

発表のための言葉の選択や質疑応答などのコミュニケーションを図る場面では、国語で学習した語い力・文章力を活用し、1年生が分かるような言葉を選んだ。また、職場やその業界に関する説明は、社会や理科での学習で習得した内容を活用し、店の経営や商品の売買、商品の品質などの話題にも触れさせた。また、ポスターの作成では、美術や技術・家庭の学習で学んだレイアウトや配色、写真の貼り付けなど見やすいものを作る技術を活用した。

各教科の教師が、生徒の質問に対して適時・適切なアドバイスをすることにより、生徒はポスターや発表内容を一層工夫し、1年生に自分の言いたいことがうまく伝わるよう努力している姿が見られた。このことから、自分の考えを分かりやすく表現しようとする意欲が高まったと考えられる。また、この活動を通して、職場体験の内容をさらに深めることができ、自己の生き方を考えることにつながったと考えられる。

学年合同で総合的な学習の時間の活動を行うことが多いので、当該学年に関連する教科の教師がそろっていればよいが、小規模校でそろわない場合は、全校体制の指導の工夫が必要である。また、昼休みの時間や放課後も活用し、生徒が質問しやすい環境を整えることも大切である。



7 成果と課題

(1) 成果

授業後、2年生、1年生、教師対象にアンケートを実施した。

- (2年生)・聞く人数が少ないので、聞き手の反応がよく感じられ、声が後ろまでよく届いたので発表をよく聞いてもらえた。
- ・何回か同じ事を言うので説明が上手になった。
- (1年生)・人数が少ないので質問をしやすくよかった。
- ・ポスターが近くでよく見え細かい点まで説明してもらえてよかった。
- (教師)・発表者が発表を何度か繰り返すことによって内容が充実していた。
- ・聞き手がその都度変わるので発表者も緊張感があってよかった。
 - ・質問がよく出されていたので、内容の薄い発表にならなくてよかった。

次の点が、成果としてまとめられる。

ポスター・セッションでの少人数の発表は、発表者と聞き手双方のコミュニケーションが図りやすく、質問や応答が活発にやりとりされて発表の楽しさを味わえる様子が伺えた。

普段から大勢の前での発表に消極的な生徒でも、人数の少ないことで緊張が緩められることやある程度の声で届く範囲に聞き手がいることで積極的に努力してみようという意欲をもたせることができた。

発表の段階では、発表者が自信をもって発表できる環境作りと聞き手が発表者の説明を理解しやすい環境作りが大切なポイントであり、そこに教師の支援の必要性があることが分かった。

(2) 課題

- (2年生)・説明がうまくいかず、思うように説明できなかった。
- (1年生)・もっと聞きたい発表があったが、時間がきて聞けなかった。
- (教師)・発表内容の工夫がさらに必要である。
- ・全グループに発表させたかった。

次の点が、課題であると考えられる。

聞き手が来年実施する職場体験への期待をふくらませることができるよう発表者の説明内容の一層の工夫が必要である。少人数での発表は、発表内容がよいと反応もよいため、事前にもっと工夫しておけばよかったという反省の声が生徒から出された。グループ発表でグループ内の数人が発表を分担し、一人当たりの持ち時間は1～2分となるので、教師の指導で発表内容の工夫は十分可能である。

発表機会を増やすための発表会の時間設定の工夫が必要である。2年生が学年内で行った一斉発表形式ならば、2時間の授業時間内で聞き手全員に対して発表側全グループの発表が可能である。ポスター・セッションの場合は、全グループの発表を聞くためには約2倍の時間確保が必要であり、発表者も18回も同じ発表を繰り返す必要があり、実施は難しい。そこで、全グループのポスター掲示による紙上発表で補うことが考えられる。

実践事例 2

B 中学校における「プレゼンテーション・ブックを活用した発表」

1 総合的な学習の時間の目標

自ら考え、自ら学ぶ態度を養うために、3年間を見通した計画のもとで、自分の興味・関心にあった課題を設定し、追究・整理・発表することを通して、表現力、決断力、判断力、実行力を育成する。また、学習を進める中で、他者や社会とのかかわりを通して自己の生き方について考えることができる生徒を育成する。

2 テーマ及び学習活動

学校テーマ 「地域と私」 第3学年テーマ 「地域に貢献しよう」

B 中学校では、3年間を通して、地域とかかわりをもつことを学習している。その中でも、第3学年では、学校周辺地区でボランティア体験を1回2時間、計7回行い、その後、学級・学年で発表会を行った。発表の段階の学習活動は、以下の通りである。

発表の方法の選択・・・個人発表をするか、グループ発表をするかを考えた。個人発表は3分間のスピーチとした。グループ発表は、ボランティア体験のグループごとに模造紙、ロールプレイング、ビデオ、写真、パソコン、イラストなどを用いて発表を行った。

発表原稿の作成・発表準備・・・発表原稿の組み立てを行った。

原稿作成は、活動記録からの出来事の抽出 小テーマ（発表項目）の設定
表現方法の設定 資料収集 シナリオ作り の順で行った。必要がある場合は、体験先にもう一度行き、調査や発表に必要な資料収集をした。

学級・学年での発表

学級での発表では、個人発表を行った。学年発表では、グループ発表会を選んだ生徒の発表とした。聞き手は発表を聞いての感想や理解したことをまとめ、発表者にも伝えた。

3 発表の段階の指導目標

体験で学んだことや得たことを活動の記録から抽出し、自分の言葉で表現させる。
表現方法・内容を生徒各自で考え工夫できるようにする。

4 発表の段階の指導過程

指導計画（全29時間中 発表の段階 9時間）

発表方法の選択（ガイダンスとグループでの相談）・・・1時間

発表原稿の作成・発表準備・・・・・・・・・・4時間

学級での発表・学年での発表・・・・・・・・・・4時間

「プレゼンテーション・ブック」の作成・活用

活動の段階を 期：スタート（ガイダンス） 期：アクティブ（活動） 期：プレゼンテーション（発表）の三つに分け、それぞれ、必要なワークシートや活動についての説明をまとめた冊子を作り、生徒に配布した。期の「プレゼンテーション・ブック」は、発表の活動を行うためのガイドブックである。活動の全記録をとり、必要な事柄を抜き出し、書き加えることにより、発表原稿が作成できるようになっている。冊子の目的は、発表内容を深めた原稿を作成する 効率よく発表する 見通しをもった計画・準備をする の3

つである。生徒はこれを用いて各自で発表準備を進めることができた。また、教師も共通理解を深めて、指導に当たることができた。

5 発表の段階の指導のポイント「情報を絞り込んだ発表」

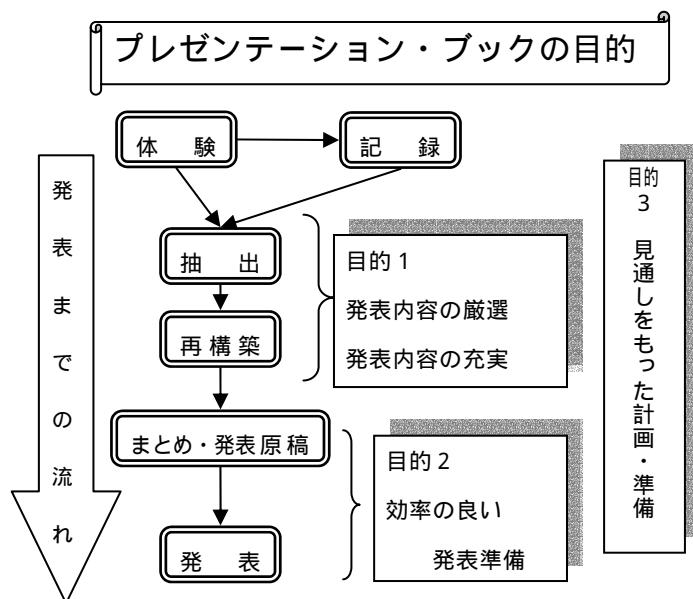
発表するに当たって、同級生や下級生に活動の内容や自分自身の成長、活動からの意見の中で、何を伝えたいのかははっきりさせる必要がある。このため、今までの活動の記録から、出来事を抽出し、その出来事によってどんな考えをもったか考えさせた。そして発表内容を整理し小テーマの設定を行った。これらの作業を行うことによって、漠然とした発表から、目的意識の高まった発表となった。ここで気を付けた点は、他人を批判する発表にならないようにすることである。ボランティア体験が7回の長期にわたるので、1回ごとの活動後に、体験内容、前回と比較してよくなった点、自己評価、出来事の記録、さらに、活動の最後には、成長した点などを記入させた。これらをもとにプレゼンテーションのシナリオを作成した。教師の支援として、発表に必要な資料のまとめ方や資料の提供、パソコンの使い方などの指導を行い、生徒が活動を振り返り、今までの活動記録から体験や思考を再構築できるよう個人面談を実施した。

6 成果と課題

短時間で発表準備と発表を行うには、その時点までの活動の記録がしっかりとなされている必要がある。「プレゼンテーション・ブック」を活用し、活動の記録からの抽出がうまくいくと、表現方法がスピーチのみでも、聞き手をひきつける発表が可能であった。しかし、活動の記録にあまり記入のない生徒は過去の記憶をたどった印象で原稿を作成したため、内容の十分な発表に至らない傾向にあった。このため、教師が活動のねらいを明確にして指導し、生徒が活動を始める段階から発表を意識して記録をとり、発表の準備を行えるようにすることが大切である。

発表では、パソコンでのプレゼンテーションや資料作りに力を入れる一方で、内容が薄れがちになる。第3学年になると、発表方法については今までの総合的な学習の時間や各教科で学習しているので、それらを十分に活用して、発表方法を工夫する時間を減らし、内容を深めるために時間をかけることができた。

、 、 期ごとの「ブック」は、活動の経過についてポイントを押さえて記録するもので、ポートフォリオ評価におけるポートフォリオの役割を果たすことができ、教師が活動の途中や結果を適切に評価する材料となった。また、生徒も活動の経過を自己評価しながら、学習を深めていくことができ、発表の材料として活用することもできた。今後、生徒の活動を十分に踏まえ、三つの「ブック」の内容の充実を図ることが課題である。



実践事例 3

C 中学校における「多様な形式による文化祭での発表」

1 総合的な学習の時間の目標

学校テーマ 「めざせ！！地球人 ～実験・発見・体験～」

国際化、高齢化、情報化など様々に変化する現実の社会の中で生きる自己を見つめる。

変化を続ける社会が抱える課題と今後の展望への積極的なかかわりを通じて、自分の生き方を真剣に考えるきっかけを見つける。

「生涯学習社会」の中で生き抜いていく基礎的な力を身に付ける。

2 テーマ及び学習活動、実施学年

C 中学校では総合的な学習の時間を基礎講座と本講座の 2 つに分けている。基礎講座は、インターネットやプレゼンテーション・ソフトの使い方などの技能と礼儀作法や電話のかけ方など、学習を進めていくために、また日常的にも必要とされている基礎・基本を習得するために学年ごとに取り組んでいる。

本講座は様々な課題に直面、追究して、体験を重ねることによって、社会の変化に対応できる態度や資質・能力を培うことをねらいとして、3 年間で 5 つの講座を設定している。

- ・本講座 **1 期** ...第 2・3 学年の本講座の準備期間として、それぞれのテーマについて学年や学級で集中的な学習を行う。
テーマ：「手話と点字」「職場体験」
- ・本講座 **2 期** ...第 1 学年での基礎講座・本講座をふまえて、個人テーマを設定し、調査・研究を行う。
- ・本講座 **3 期** ...1 年間の学習をもとに、また次年度を見越して学年や学級で集中的な調査研究を行う。
テーマ：「修学旅行に向けて～平和～」
- ・本講座 **4 期** ...ここまでの学習成果を集約し、より高度な発表を目指し、研究を進めまとめる。
- ・本講座 **まとめ** ...卒業に向けて、これまでの学習成果を制作や発表活動に集約する。

1・3 期とまとめの本講座は、学年ごとに内容を毎年見直しながら行っている。2・4 期は 2 学年合同で、国際理解・福祉・人権の視点から「共に生きる」、環境の視点から「地球に生きる」の 2 つを取り上げている。

C 中学校では文化祭を日頃の教育

活動の発表の場と位置付け、教科や部活動の発表とともに総合的な学習の時間の第 1 学年の基礎講座、第 2・3 学年の 2・4 期の本講座の学習成果を中心に発表している。

	1 年	2 年	3 年
4 月	基礎講座	基礎講座	基礎講座
5 月	和学園		
6 月	校外学習	本講座 (3 期) 修学旅行	本講座 (4 期) 修学旅行
7 月			
8 月		海外体験学習	
9 月			
10 月	本講座 (1 期)		
11 月	文化祭	文化祭	文化祭
12 月		本講座 (学年) (2 期)	本講座 (学年) (3 期)
1 月			
2 月		校外学習	
3 月			卒業

3 発表の段階の指導目標

見学者がより具体的なものを見たり、聞いたり、体験できる発表にできるように意識させる。

説明は時間配分も考え、簡潔にわかりやすくまとめるようにするように意識させる。

4 発表の段階 (2・4 期) の指導過程

第 2・3 学年合同のオリエンテーションで発表方法・形態の構想も含め研究内容を説明し、生徒一人一人が研究テーマを設定し、調査・研究を進め、発表する。本年度の研究テーマとし

て、「共に生きる」... 平和、幼児教育など、「地球に生きる」... 廃油石鹸、リサイクルなどが設定された。文化祭で、各グループが工夫を凝らし、生徒は次のような方法で発表した。

- ・ポスター・セッション
- ・実演しながら説明
- ・プレゼンテーション・ソフトを用いて説明
- ・ロールプレイングとプレゼンテーション・ソフトを併用して説明
- ・模造紙での発表
- ・弁論発表
- ・ビデオ編集での発表
- ・演劇
- ・手話コーラス

5 発表の段階の指導のポイント「計画的に準備した発表」

全校生徒や保護者、地域住民を対象に、自分の学習してきたことのどの部分をどのように発表するか、また、発表方法や形態をどうするかについて、生徒一人一人に考えさせ、計画的に準備ができるよう個人指導を充実させた。その結果、生徒は様々な工夫を重ねながら、よりよい発表をしたいという気持ちが高まり、能動的に取り組み、主体的に学習を進める態度が見られるようになった。

6 各教科等の学習との関連

総合的な学習の時間と各教科等の横断的な学習ができるよう、基礎講座を中心に各教科等と関連付けた。弁論大会では、新聞から社会で問題になっている事柄を取り上げ、意見文を書き、学級・学年で発表を行った。国語の話すこと・書くこと、社会の世界の地域の領域での学習を生かし、全体の前で自分の意見を自信をもって発表できる生徒が多くなった。

2・4期の本講座でもテーマ、発表によって各教科と関連する内容が扱われている。特にコンピューターの活用については、各教科等の発表でも、総合的な学習の時間での学習の成果を取り入れる生徒が多くなった。

7 成果と課題

文化祭で総合的な学習時間の成果を発表するようになって、3年が経過する。当初は、体育館の舞台発表と模造紙での発表がほとんどであった。しかし、昨年から多目的ホールに小劇場を設置し、発表方法に、ポスター・セッションや実演発表が加わった。今年度は、複数の発表方法を併用して行うようになった。

生徒は発表のねらいがはっきりしているため、計画を立てやすくなった。また、下級生が上級生の様子を見学し、興味をもって取り組めるテーマは何か、調査・研究の結果を多くの人に伝えるために効果的な発表は何かがあるかを知ることができる。中には、前年度の上級生の発表を引き継いで、より深く研究し、発表する生徒も出てきた。生徒のアンケートの回答には、

「来年度はビデオ編集を行って発表したい。」

「ロールプレイングとプレゼンテーション・ソフトを使ったので、分かりやすかった。」

などがあり、次年度に生かそうとする姿勢が見られるようになった。

課題として、今後も生徒が主体的に学習し、発表するためには、教師が総合的な学習の時間のねらいを一層明確にし、課題を設定する段階から、生徒が見通しをもって活動できるよう指導することが挙げられる。



成果と課題

本研究は、総合的な学習の時間の発表の段階について、自分の考えを分かりやすく表現しようとする意欲を高め、主体的に学習する態度を育てるための効果的な指導と評価の両面から進めてきた。総合的な学習の時間で身に付いた力、各教科等で身に付いた力それぞれがよりよく作用するような指導の方法と、効果的な評価について考え、授業の実践を通して検証した。その結果、次のような成果と課題に至った。

1 成果

(1) 総合的な学習の時間の発表の段階の指導の工夫

- ・実態調査を実施し、教科等で身に付けた力と発表に必要な力との関連を明らかにすることにより、身に付けた力を十分活用した発表の活動が行えるようにした。
- ・実態調査の結果や各教育研究員の指導の実態から、発表の段階の指導のポイントを「読み手や聞き手を意識した発表」、「情報を絞り込んだ発表」、「計画的に準備した発表」の三つにまとめて、指導を行った。このことにより、生徒は、発表内容・方法・形態を工夫し、分かりやすく、聞き手が満足する発表を行うことができ、自らの学習を的確に振り返り、主体的に取り組む態度が育った。
- ・総合的な学習の時間で展開されている主な発表方法を分類し、長所と留意点をまとめることにより、身に付けさせたい力に応じて発表方法を工夫できるようにした。

(2) 総合的な学習の時間の発表の段階の評価の工夫

- ・総合的な学習の時間の評価の観点を 15 項目に分類し、発表で身に付けたい力や態度に対応した評価項目を設定することにより、指導と評価の一体化の工夫が図られやすくなった。
- ・15 の評価項目に対応した学習の段階別の評価規準例を作成し、学習の段階別のきめ細かな評価を行うことにより、発表の活動の充実が図られた。
- ・発表方法ごとの評価の留意点をまとめることにより、個に応じた指導に対応した評価、意欲を喚起する評価が行いやすくなり、生徒の発表の活動への意欲が高まった。
- ・「総合的な学習の時間の報告カード」による評価結果の活用を工夫し、評価結果を生徒・保護者に適時・適切に知らせることにより、保護者の理解が深まり、生徒の学習意欲が高まった。

2 課題

(1) 総合的な学習の時間の発表の段階の指導の工夫

- ・紙上でのまとめや発表に比較すると、学習したことを口頭で発表することが少ないことから、自分の意見を自信をもって発表する力はまだ十分には身に付いていない。今後は、口頭での発表の機会を増やし、発表についての基本的な知識や技能を向上させる指導の充実を図ることが必要である。
- ・発表方法・形態の工夫とともに、異学年交流の発表、外部向けの発表等、一層多様な発表の場の設定の工夫が必要である。

(2) 総合的な学習の時間の発表の段階の評価の工夫

- ・発表の段階を教師が評価する場合、成果物や発表内容の評価に偏らないよう、学習過程全体を評価する評価方法の工夫がさらに必要である。
- ・課題設定から発表の段階までを見通す指導計画にしたがって、評価を効率的に行うため、評価資料収集の工夫が必要である。

平成16年度 教育研究員名簿（中学校 総合的な学習の時間）

	区市町村名	学 校 名	氏 名
第一分科会	中央区 杉並区 荒川区 ・飾区 東大和市 多摩市	佃 中 学 校	永 井 圭 樹
		天 沼 中 学 校	小 川 善 広
		尾 久 八 幡 中 学 校	萩 原 卓 朗
		小 松 中 学 校	元 田 文 代
		第 二 中 学 校	田 中 一 郎
		東 愛 宕 中 学 校	野 畑 愛 子
第二分科会	江 東 区 大 田 区 中 野 区 日 の 出 町	深 川 第 八 中 学 校	今 宮 馨
		矢 口 中 学 校	布 施 実
		第 五 中 学 校	矢 澤 比 呂 志
		平 井 中 学 校	松 田 正

世話人 副世話人

担当 東京都教職員研修センター統括指導主事 福井 正仁

平成16年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録
平成16年度 第21号
(東京都教育委員会主要刊行物)

平成17年1月24日

編集・発行 東京都教職員研修センター
所在地 東京都目黒区目黒1-1-14
電話番号 03-5434-1974

印刷会社名 鮮明堂印刷株式会社